

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5 月 18 日現在

機関番号：15501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2011

課題番号：20530826

研究課題名（和文） アジア地域における美術教育課程の実質化調査研究

研究課題名（英文） A Study of Art Education Curriculum and its Implementation in Asia.

研究代表者

福田 隆真 (FUKUDA TAKAMASA)

山口大学・教育学部・教授

研究者番号：00142761

研究成果の概要（和文）：本研究はアジア地域の中で、台湾、シンガポール、マレーシアを対象とした美術教育の研究である。美術教育課程が学校教育においてどのように実質化されているかを調査の目的として、教育課程、教科書、教材、教育方法、美術文化の背景、教員養成について、文献と現地での実態調査を行った。その結果、台湾では複合領域での創造性の教育を重視し、シンガポールでは視覚言語によって主題を優先する表現教育を行い、マレーシアでは伝統文化の継承と現代文化の創造を重視していることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：This is a study on art education in the Asian region, more specifically, Taiwan, Singapore and Malaysia. In order to find out how schools put the curriculum content of art education into practice, research on school curriculum, textbooks and other teaching materials, teaching methods, the background of art culture and teacher education was conducted through literature and fieldwork. From the study, the following things have become clear. In Taiwan, an integrated form of creative education is emphasized. In Singapore, education for self-expression that prioritizes a theme via a visual language is operated. In Malaysia, the succession of traditional culture and the creation of modern culture are regarded important.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：美術教育、教育課程、シンガポール、マレーシア、台湾、中国、韓国、実質化

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究はアジア地域の台湾、シンガポ

ール、マレーシアを対象として、美術教育の教育課程の内容が、実際に初等中等教育でど

のように反映されているかという「実質化」を調査研究するものである。あわせて、美術教育に密接に関連する教員養成、高等教育、美術文化活動を合わせて調査する。

(2) 本研究の着手時点では、台湾、シンガポール、マレーシアそれぞれにおいて新しい教育課程が施行されており、具体的な教材や指導内容として実質化され始めていた。台湾では、2002年から新しい学習領域「芸術と人文」が実施されており、従来の音楽、美術等の教科を統合した新しい領域の内容を調査する必要性があった。シンガポールにおいては2000年の教育課程において新しい美術教育が開始されていた。制作を通じた技術習得とは異なる教育方法における創造性育成の問題点の有無についての調査の必要性が存在していた。また、マレーシアにおいては「視覚美術教育」として実践されている美術教育の教育課程と現実の授業内容との関連性とそこに存在する視覚言語による創造的表現の教育に調査の必要性が存在していた。

(3) 上記の問題に関連した教員養成と高等教育、美術文化背景の調査の必要性も存在していた。

福田と佐々木はすでにシンガポールとマレーシアについては平成7年、8年、及び平成10年から12年において美術教育のカリキュラム調査を行っており、教育課程については把握していた。しかし、いずれの調査対象地域も時代と社会の変化によって教育課程の改訂を計画しており、新たな教育課程の方向性とその実質化についての調査が必要と考えた。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、台湾、シンガポール、マレーシアを調査対象とし、美術教育の教育課程がどのように実践され実質化されているかを調査するものである。教育課程が実際の美術教育に反映されるには、教員養成、高等教育の美術教育、教科書、教材、教員研修、美術文化の背景などが要因として考えられる。これらを通して教育の質的向上を目指すプロセスを、本研究では「教育課程の実質化」と定義し、上記対象国における美術教育の教育課程の実質化を調査することを目的とした。これによって、美術教育が標榜する創造性の教育が、多様な社会状況においてどのように捉えられ、実施されているかを明らかにすることを試みた。

(2) 台湾における状況と目的：

台湾においては、美術教育は学習領域「芸術と人文」の一環としてなされている。「芸術と人文」は視覚美術、音楽、表演の3つの

分野を統合した学習である。創造性の教育を領域や分野を統合して行うものである。本研究では、この学習領域における美術教育がどのように行われ、創造性の教育をどのように具体化しているかを調査し、明らかにすることを目的とした。

(3) シンガポールにおける状況と目的：

シンガポールにおいては、2000年以前の教育課程では、美術の伝統的な内容と現代的内容から美術教育に内容が構成されていたが、2001年以降は美術教育による創造性の育成を目指して、テーマによる美術表現を実践してきた。それは、「環境」、「伝統」、「人々」、「オブジェ」などのシンガポールを取り巻くテーマを設定し、表現の基礎として造形要素と造形原理を学習させ、テーマの表現は自由にさせるという方法である。従前の美術教育では、民族間の融和に配慮した民族文化の均衡を維持した美術の内容設定が特徴的であった。しかし、新しい教育課程ではシンガポール人あるいはシンガポール国としての創造的表現を目指すことが強調されている。この教育課程が実際にどのように美術教育に反映されているのかを調査し、創造的表現の内容を明らかにすることを目的とした。

(4) マレーシアにおける状況と目的：

マレーシアにおいては、美術教育は視覚美術教育として実施されている。初等中等教育における美術教育の特徴は、視覚言語による教育内容の習得、伝統工芸の理解、マレー文化の理解である。こうした内容が2000年以降も継続されている。視覚言語による美術教育はデザインの分野だけではなく、表現の全ての分野において実施されている。本研究では、マレーシアの視覚言語による美術教育の展開の具体例の調査、創造性育成との関連、マレーシアの美術文化と美術教育との関連、教育課程の実施の現状について明らかにすることを目的とした。

(5) 以上のように、台湾、シンガポール、マレーシアにおける具体的調査研究目的を通じて、美術教育課程が実際の美術の授業等にどのように反映され、創造性の育成としての内容を考察することを目的とした。

3. 研究の方法

研究の方法は文献研究と実態調査を基本としている。実態調査においては、聞き取り調査と資料収集である。

(1) 台湾における調査研究：

台湾においては、教育課程と教員養成の調査として、国立台北教育大学の林曼麗教授、劉得紹教授、国立東華大学の林永利教授およ

び羅美蘭副教授、国立屏東教育大学の李勝男教授との協力を得て、教育課程の編成の目的、方針、実施状況、問題点について聞き取り調査を行った。また、実施状況として、国立台北教育大学敷設実験国民小学、高雄市小港区桂林国民小学、屏東県鶴声国民小学、花蓮市中原国身小学、台北市辛亥国民小学、台北県蘆洲市蘆洲国民小学において、学習領域「芸術と人文」の各小学校における教育課程の年間計画、教材、教育方法について調査を行った。

台湾における美術文化と美術教育の関係については、国立故宫博物院、台北市立美術館、国立台湾美術館、高雄市美術館において中国美術と台湾美術についての資料収集を行った。またその内容について、高雄市立美術館の張雅晴研究員、東海大学の林平教授に聞き取り調査を行った。

(2) シンガポールにおける調査研究：

シンガポールにおいては、教育課程についてはインターネットで入手し事前に全体把握をすることができた。その内容については、南洋工科大学教育学院のJane Leon 准教授、Winston Ang 准教授に聞き取り調査を行った。

初等中等の教育内容については、教育用図書によって教材の内容と構造、多様な美術表現について分析を行った。

教員研修については、新しく設立された教師学院 (Teachers Academy) のTang Hui Jing より美術教育研修について説明を受け、その内容把握を行った。

また、シンガポールの各民族である中華系、マレー系、インド系の伝統文化の資料収集のため、シンガポール博物館を訪問調査した。さらに美術文化の資料集のためシンガポール・アート・ギャラリーを訪問調査した。

美術の高等教育の調査として、南洋美術学院とタマセック・ポリテクニクにおいて専門美術教育の内容を調査した。

(3) マレーシアにおける調査研究：

教育課程については、マレーシア教育省教育課程局において、主任のJagdeeshおよびNizamとの聞き取り調査により、教育課程の改訂の計画と方針について調査を行った。また、寄贈された美術教育課程について講読し、その内容把握を行った。

初等中等美術教育の教材については、市販されている最新の教育用図書を入手し講読し、教材の分析、教材構造を把握した。具体的教材と教育方法については、ペナンの中華中等学校美術教師The Ee Ming、韓江中等学校美術教師Lew Hewg Jit, Choi Kim Hong, クアラルンプール市内クアンタン第2小学校のIsmail Bin Ahmad等への取材を通じて調査を行った。

教員養成と高等教育の美術教育については、スルタン・イドゥリス教育大学Ibrahim教授、マラ工科大学のKamaruddin教授、特別教員養成学院のBaba Ahamad教授から初等中等の教員養成と美術教育の内容を調査した。

美術教育の背景としての美術文化についての調査は、マレーシア国立博物館、国立美術館、ペナン博物館、ペナン州立美術館において資料収集を行い、分析調査を行った。

以上の実態調査によって得られた情報を整理し、文献等によって補完して調査研究の論文等を作成した。代表者の福田は分担者の佐々木、上原と適宜、情報交換、研究打ち合わせを行った。

4. 研究成果

本研究の成果については主に論文によって公表してきた。調査対象別には以下である。

(1) 台湾の研究成果について：

台湾における学習領域「芸術と人文」の教育課程の内容についてはすでに報告をしてきた。本研究では、教育課程の実質化という観点で、台北県蘆洲市の蘆洲小学校において年間指導計画、美術と音楽の融合した教材例等を調査した。このことは「台湾の小学校における「芸術と人文」教育課程の実践調査、その1、その2」において成果を公表している。そこでは、教科を統合した学習領域による美術教育の利点として以下のことがあげられた。

①幅広い観点からの授業によって児童の発言が活発になる。

②美術と音楽の教員の協働による教材開発により新しいものが生まれる。

③美術の内容から現代社会、歴史、環境、人権などの幅広い教育を行うことができる。

この結果、児童は全体的に学習意欲が高まったとのことである。また、改善点としては、教員の教材開発、授業準備に過剰に時間を必要とする現実が指摘された。

次に「台湾の小学校における芸術教育の教育課程と実践状況」の論文では以下のような結果を得た。

①国立台北教育大学附設実験国民小学における調査では、「芸術と人文」の教材例をDVDで公表しており、この学習領域の実質化を社会的に貢献していることが明らかになった。

②上記の内容では、「芸術と人文」は従来の「美勞」「音楽」よりもイメージや体験、多様な文化の認知に重点が置かれていることが明らかになった。

③高雄市小港区桂林国民小学における調査では、「芸術と人文」の授業の実施において、

問題点が指摘された。それは音楽も美術も実技を伴う内容が殆どなので、別々に授業をするほうが効果的であるということである。

④屏東県鶴声国民小学での調査では、「芸術と人文」に積極的取り組んでいる姿が伝わってきた。学校環境を芸術的な素材で整備しており、授業外においても「芸術と人文」の意図する内容に触れることができるようになってきている。実際の授業では美術と音楽は別々に扱い、指導しているとのことであった。従って統合的に扱うことと美術と音楽を従来通り別々に扱うことが良いのか、判断し難い状況であった。

⑤花蓮市中原国民小学での調査では、この小学校が美術教育の英才教育を進めている学校であることから、「芸術と人文」の統合的扱いよりも、美術教育そのものを積極的に進めていることが明らかになった。こうした美術の英才教育を行っている「美術学級」を持つ小学校は台湾では各県や市に1、2校存在している。中原国民小学では美術専科の教員が3名在籍し、「美術」の授業も週に8時間実施しており、それに「音楽」を1時間追加して「芸術と人文」という学習領域としている。美術学級の児童は創造性育成を目的としており、技術的向上だけではなく、美術への興味を促す様々な取り組みが行われていることが明らかになった。

これらの調査の他に、日本と台湾の教育課程と児童・生徒の絵画作品との関係を述べた書籍を台湾において刊行した。監修に当たっては東華大学林永利教授、同林美蘭教授、福田、佐々木である。ここでは教育方法によって子どもたちの絵画表現への興味関心の相違や描画技法の相違が見られることが明らかになった。

以上のような調査において、台湾での「芸術と人文」の教育は、現在、過渡期にあるが、諸種の改革、工夫をしながら当初の目的を達成しようとしている。「芸術と人文」の第一の目的は創造性の育成であり、新しい教育課程において学習領域を設定したことは、空間的な統合による創造性の育成を目指している。学習領域を拡大することで、従前にはなかったような発想や創造の契機や手段を期待することができる。「芸術と人文」の実践においては現段階では地域差や学校差があり、必ずしもシステムとして統一されているわけではないが、大綱化によって裁量権が増え、実情に合わせた教育方法が採られているといえる。

もう一つの方法は、「古いものは新しい」というスローガンで歴史的な遺産等を生かした創造性の教育である。時間的な統合による創造性の育成とも言える。国立故宮博物院の所蔵品をはじめ、先住民族の芸術的遺産や伝統を生かして、美術や音楽の想像を育む拠

り所としている。

以上のことが、台湾の調査によって明らかとなった。

(2) シンガポールの研究成果について：

シンガポールの教育課程は本研究の開始時点では2000年の改訂に基づくものであった。そして2008年に改訂され2009年から実施されている。実際には移行期であり、完全実施ではない。また、大幅な改訂ではないので美術教育の実践は従前との変化は少ない段階にある。

シンガポールは小規模な都市国家であるので、教育課程の改訂や教科書作成の現実対応が比較的早急に為される傾向にある。そして教員研修等により流布されるのも速いといえる。

2000年改訂の教育課程についてはすでに資料を入手し分析も行い、内容についての公表も行っていった。本研究では、それらに基づいて、創造性の育成のための要因として、シンガポールの美術的環境と学校教育以外での美術教育の調査と教員研修の調査を主に実施した。また、本研究の最終年度においては新しい教育課程の調査を行った。

学校教育以外での美術教育については、シンガポール・アート・ギャラリー（美術館）における子ども向けの美術教育取材した。そこでは幼稚園から小学校高学年までの児童を対象として、美術に興味を持つ児童を対象に表現の技法を中心にして、創造的な表現活動を行っていた。こうした社会教育がシンガポール全体の美術教育にも寄与していることが認識できた。

教員研修については、2009年に設立されたTeachers Academyにおいて美術教育の教員研修について調査を行った。そこでは主に小学校教員を対象として表現技術の研修を実施していた。小学校教員養成はNIEで行われているが、美術専攻以外の教員も小学校教員として多数存在しているので、その教員を対象として多様な材料による表現技術の習得とそれに関わる創造的表現の試行錯誤を行い、出来上がった作品の展示会を開催している。このことにより相互の理解が進んでいることが明らかになった。

2009年実施の教育課程については、論文「シンガポールの初等教育における改訂美術教育課程—2009年実施の新シラバスの概要—」において美術教育課程の全体を述べている。新しいシラバスにおいては、視覚言語の内容を充実させ、指導と評価を従前のものより重厚に扱っていることが明らかとなった。中等教育の視覚言語による教育内容は、2000年と2009年の教材を比較して、2009年の教育課程での視覚言語の意義を、論文「視覚言語の教材について—シンガポールの教

科書を事例に「一」において報告した。

シンガポールの調査においては、NIE の Winston Ang 准教授との聞き取り調査において、シンガポールの競争社会と競争原理による学校教育と美術教育の関連について問題提起が為された。美術教育は競争原理の学校教育に適応することができるかどうか、についての問題を今後の研究課題となった。

(3) マレーシアの研究成果について：

マレーシアにおける美術教育課程については、現行の内容についてはすでに調査を行い、報告も行っている。教育課程については現在、改訂作業に入っている 2011 年以降の内容調査を行った。教育省において今後 6 年間かけて年次進行で改訂される内容の特徴について調査した。計画中の教育課程の居行く内容については大幅な改訂はなく、教育方法、評価に改訂が見られる。教育方法は教授方からやや児童生徒中心型への変更、評価については多面的な評価基準の導入を計画していることが明らかになった。このことについては小学校 1 学年の例で、「マレーシアの新しい美術教育課程の計画」としてまとめた。

マレーシアの小学校での実践については、「マレーシアの小学校美術教育教材と実践調査 2009」に報告した。そこでは教育課程に定められた教材を忠実に授業で実施していることが明らかになった。また、校内研修としての美術教育の事例を述べた。中等教育の教育実践についても同様に、教育課程での内容に基づく教材作成、授業実践が行われていることが明らかになった。このことは「視覚言語によるマレーシアの美術教育について」と「美術教育課程の実質化プロセス—山口、台湾、マレーシアの事例—」に報告した。マレーシアは国民文化の形成を目的として、教育課程に基づく美術教育を忠実に実践していることが明らかになった。

教員養成についてはスルタン・イドゥリス教育大学に大学院が設置され、初等教育教員養成の教育内容の充実を図っていることが明らかになった。また、美術の専門学部においても大学院出身者が増え、中等教育の美術教員の内容の充実を行っている。

マレーシアの美術教育の背景となる美術活動、美術家については論文「美術教育の背景としてのマレーシアの美術と美術家について (1)、(2)」において戦前からのマレーシアの美術運動と美術家、美術家養成について述べた。独立後の欧米への留学によって、多様な美術表現が齎され、それによって自国の美術文化の問い直しと視覚言語による美術教育への関連が明らかになった。

以上のことから、マレーシアにおける美術教育課程の実質化は、国民文化の形成という目的にも合致し、伝統文化の継承と現代文化

の形成を、教育課程の内容に概ね即しながら美術教育実践を行っていることが明らかになった。そして、美術運動や美術家、工芸家も美術教育への相互協力を行うことを目指していることが明らかになった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 17 件)

- ①佐々木幸、シンガポールの初等教育における改訂美術教育課程—2009 年実施の新シラバスの概要—、北海道教育大学紀要 (教育科学編)、査読無、第 62 巻、2012、pp.151-162
- ②福田隆眞、マレーシアにおける新しい美術教育課程の計画—小学校視覚美術 1 学年の実施を事例として—、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、第 33 号、2012、pp.95-101
- ③福田隆眞、佐々木幸、阿部萌、視覚言語の教材について—シンガポールの教科書を事例に—、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、第 33 号、2012、pp.103-111
- ④佐々木幸、福田隆眞、台湾の小学校における芸術教育の教育課程と実践状況、鉤路論集、査読無、第 43 号、2011、pp.87-94
- ⑤上原一明、マレーシアの現代彫刻について、山口大学教育学部研究論叢、査読無、第 61 巻、2011、pp.37-42
- ⑥福田隆眞、美術教育の背景としてのマレーシアの美術と美術家について (2)、山口大学教育学部研究論叢、査読無、第 61 巻、2011、pp.297-308
- ⑦福田隆眞、佐々木幸、美術教育課程の実質化プロセスについて—山口、台湾、マレーシアの事例、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、第 32 号、2011、pp.37-45
- ⑧福田隆眞、藤雪麗小学校における中国の課程標準と日本の学習指導要領の比較研究、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、第 30 号、2010、pp.57-66
- ⑨金香美、福田隆眞、佐々木幸、日本の美術教育の新しい教育課程と韓国への示唆、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、第 30 号、2010、pp.33-44
- ⑩福田隆眞、マレーシアの小学校美術教育教材と実践調査 2009、山口大学教育学部研究論叢、査読無、第 60 巻、2010、pp.255-265
- ⑪福田隆眞、視覚言語によるマレーシアの美術教育について、基礎造形、査読有、第 18 号、2010、pp.39-46
- ⑫福田隆眞、視覚言語の活用とイメージの形成、造形ジャーナル、査読無、第 54 巻、2009、

pp.2-5

⑬上原一明、福田隆眞、台湾の小学校における「芸術と人文」教育課程の実践調査その2、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、2009、第28号、pp.61-70

⑭上原一明、福田隆眞、台湾の小学校における「芸術と人文」教育課程の実践調査その1、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、2009、第28号、pp.49-60

⑮福田隆眞、マレーシア中等教育美術の内容・教材構成について、山口大学教育学部研究論叢、査読無、第59巻、2009、pp.293-302

⑯福田隆眞、美術教育の背景としてのマレーシアの美術と美術家について（1）、山口大学教育学部研究論叢、査読無、第58巻、2008、pp.267-275

⑰福田隆眞、張雅晴、戦後初期から1960年代までの台湾芸術の変遷について、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要、査読無、第27号、2008、pp.1-11

〔学会発表〕（計1件）

①福田隆眞、マレーシアにおける美術教育の実践、日本教育大学協会美術部門協議会中国地区総会、2010年6月29日、島根大学、松江市

〔図書〕（計1件）

① 福田隆眞、佐々木幸他、風和文化芸術有限公司、解析台湾・日本美術教育と児童画（中国語版）、2010、94頁、

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福田 隆眞 (FUKUDA TAKAMASA)
山口大学・教育学部・教授
研究者番号：00142761

(2) 研究分担者

佐々木 幸 (SASAKI TSUKASA)
北海道教育大学・教育学部・教授
研究者番号：40261375

上原 一明 (UEHARA KAZUAKI)
山口大学・教育学部・准教授
研究者番号：40265038